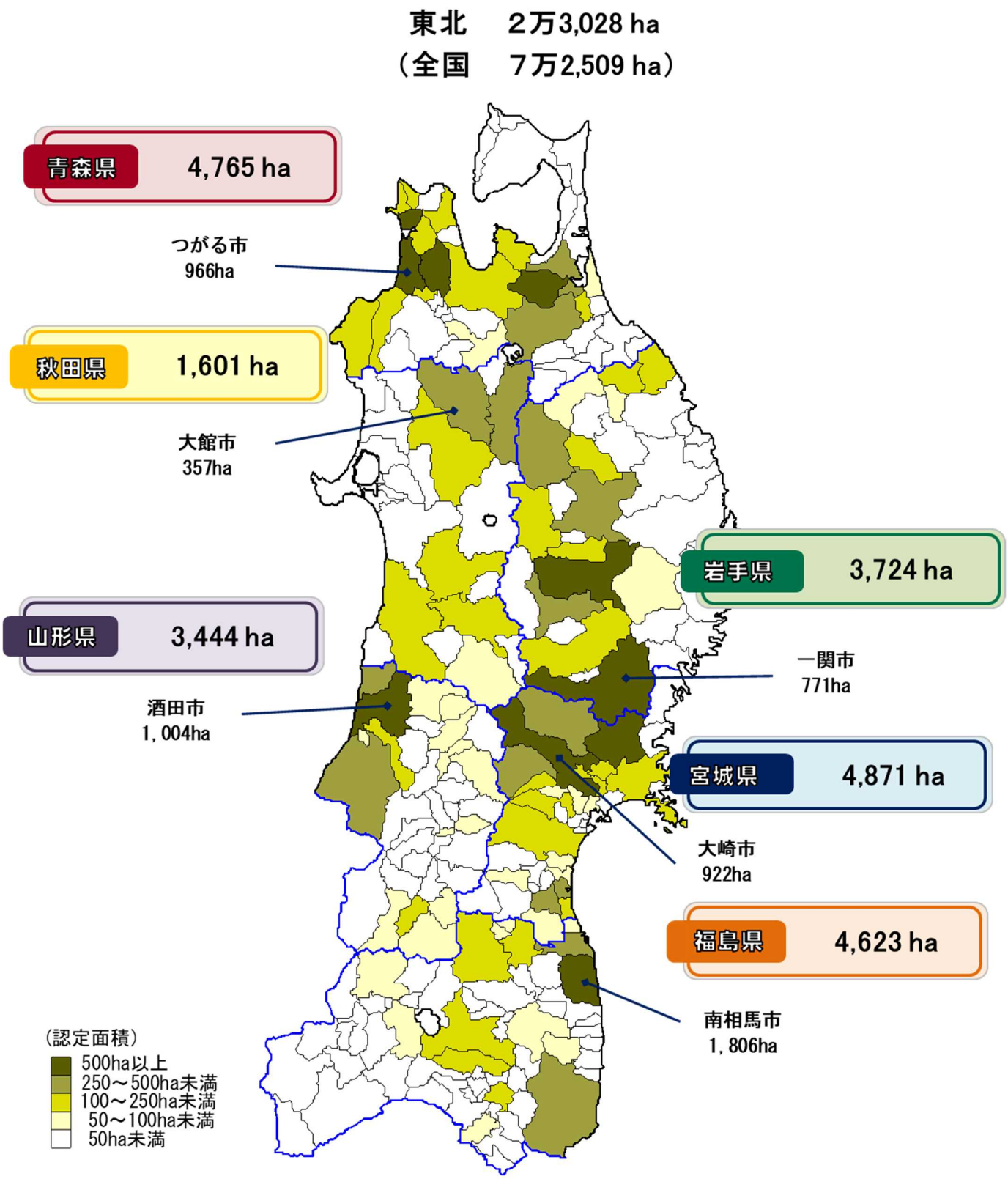
図表 参 2-11　飼料用米認定面積（令和元(2019)年産）



資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」、「地域農業再生協議会別の作付状況」
注：１）東北における認定面積は、四捨五入の関係から県別の認定面積及び認定数量の和と一致しない場合がある。
２）個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、一部の市町村の飼料用米認定面積を公表していないことから、当該市町村は白色としている。
３）表示した市町村は、各県内で飼料用米認定面積が公表されている市町村で最も大きい市町村である。

（業務用米の安定供給に向けた積極的な取組）

○ 主食用米全体については、需給バランスがとれている一方、中食・外食等の需要者が求める国産米と実際に生産される銘柄との間にはミスマッチが生じています。

○ 東北各県の業務用仕向けの米の比率については、福島県 65%（全国１位）、宮城県 53%（全国６位）と高い比率となっており、安定した販売（需要）が確保されています（図表 参 2-12）。

○ このような中、各産地と外食・中食等の実需者の間で、複数年契約、事前契約などの安定取引をさらに拡大するとともに、多収品種や直播・疎植栽培等の導入による低コスト生産の取組が進められています。

図表 参 2-12　各県産米の販売先割合（平成 30(2018)年７月～令和元(2019)年６月まで）

産地	業務用向け(産地品種銘柄別内訳)					家庭内食
青森	47%	まっしぐら 36%	つがるロマン 10%	その他 1%		53%
岩手	40%	ひとめぼれ 33%	あきたこまち 4%	いわてっこ 1%	その他 2%	60%
宮城	53%	ひとめぼれ 46%	つや姫 2%	ササニシキ 1%	その他 4%	47%
秋田	17%	あきたこまち 8%	ひとめぼれ 3%	めんこいな 2%	その他 3%	83%
山形	49%	はえぬき 40%	ひとめぼれ 3%	つや姫 1%	その他 5%	51%
福島	65%	コシヒカリ 38%	ひとめぼれ 17%	天のつぶ 5%	その他 4%	35%

資料：米に関するマンスリーレポート

図表 参 2-13　各県産米の品種別生産割合

産地	産地品種銘柄別内訳(検査実績)			
青森	まっしぐら 75%	つがるロマン 19%	青天の霹靂 4%	その他 2%
岩手	ひとめぼれ 71%	あきたこまち 15%	銀河のしずく 5%	その他 9%
宮城	ひとめぼれ 73%	つや姫 8%	ササニシキ 6%	その他 13%
秋田	あきたこまち 77%	めんこいな 8%	ひとめぼれ 6%	その他 9%
山形	はえぬき 61%	つや姫 17%	ひとめぼれ 7%	その他 15%
福島	コシヒカリ 54%	ひとめぼれ 21%	天のつぶ 14%	その他 11%

資料：「平成 30 年産米の検査結果（速報値）平成 31 年 3 月末日現在」から推計

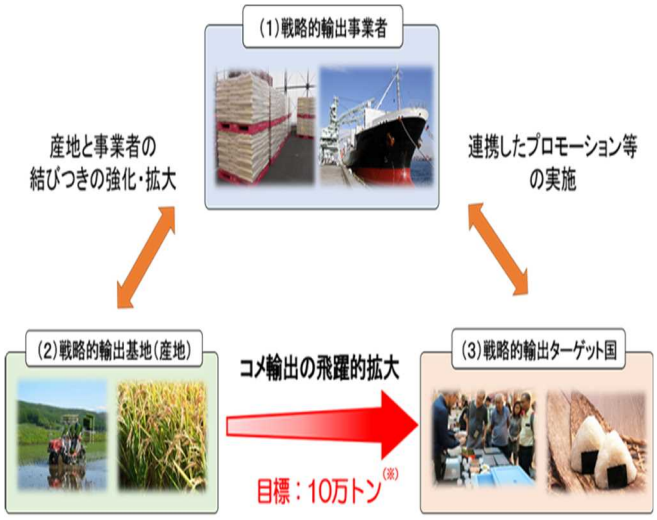
（輸出用米の安定供給に向けた積極的な取組）

○　農林水産省は、平成 29(2017)年９月、コメ・コメ加工品の輸出目標「600 億円」の目標年次である平成 31(2019)年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」を立ち上げました（図表 参 2-14）。

○　令和２(2020)年７月 31 日時点でこのプロジェクトへの参加状況をみると、戦略的輸出事業者が全国 74、戦略的輸出基地（団体・法人）が全国で 255、東北で 81 となっています（図表 参 2-15）。

○　東北農政局は、情報提供やマッチングの推進のため、令和元(2019)年 12 月３日、仙台市（せんだいし）で「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」マッチングイベント（仙台会場）を開催し、産地側９団体、事業者側７団体が参加しました（図表 参 2-16）。

図表 参 2-14　プロジェクトの内容



（※）米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

図表 参 2-15　戦略的輸出事業者・輸出基地

(ア)戦略的輸出事業者
　74 事業者（目標数量合計 14 万トン）
(イ)戦略的輸出基地
　(1)団体・法人　　全国 255 産地（東北 81 産地）
　(2)都道府県単位の集荷団体等
　　全国 21 団体（東北６団体）
　　((1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等)
　(3)全国単位の集荷団体等　１団体
　　((1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等)
　　※令和２(2020)年７月 31 日現在

図表 参 2-16　マッチングイベントの様子

「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」マッチングイベント（仙台会場）

２．麦類

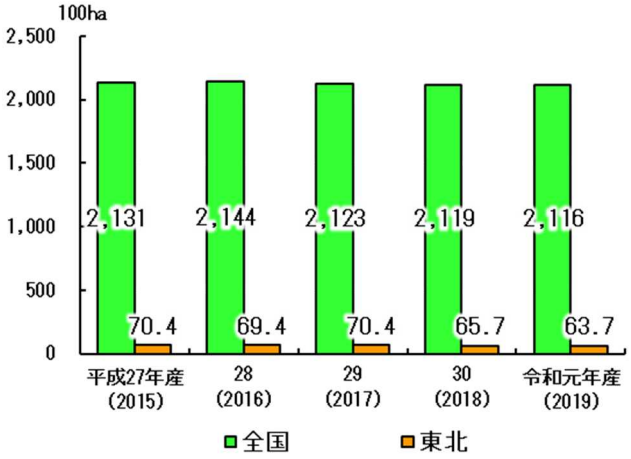
（小麦の収穫量は、前年産より増加）

○　東北における令和元(2019)年産の小麦（子実用）の作付面積は、主に青森県及び岩手県の作付けが減少したことにより、前年産に比べて 3.0%減少して、6,370ha となりました。全国に占める東北の割合は 3.0%となっています（図表参 2-17）。

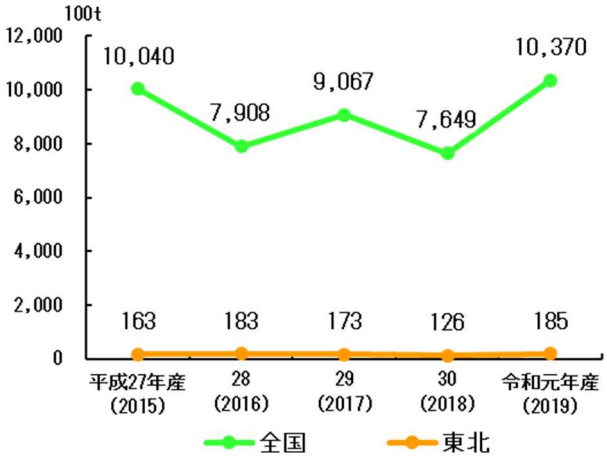
○　収穫量は、作付面積が減少したものの、作柄が良かったことにより、前年産に比べて 5,900ｔ増加して、１万 8,500ｔとなりました。全国に占める東北の割合は 1.8%となっています（図表 参 2-18）。

○　品質については、令和元年産麦の検査結果（確定値）で、１等比率が前年産に比べて 19.3 ポイント上昇し、75.9%となっています。

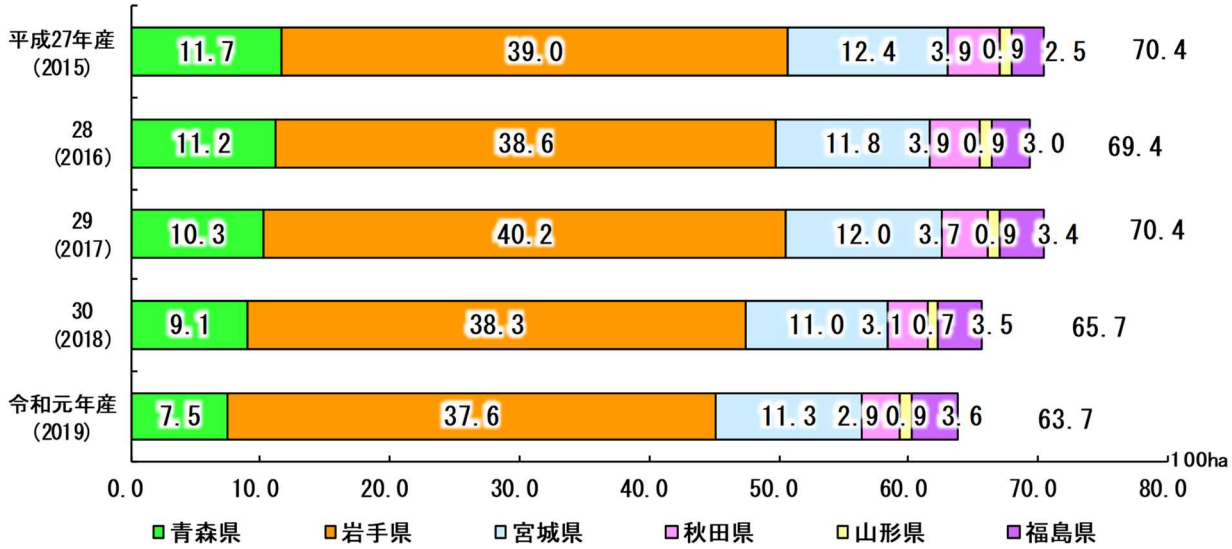
図表 参 2-17　小麦(子実用)作付面積の推移（全国・東北）



図表 参 2-18　小麦収穫量の推移（全国・東北）



図表 参 2-19　小麦(子実用)作付面積の推移（県別）

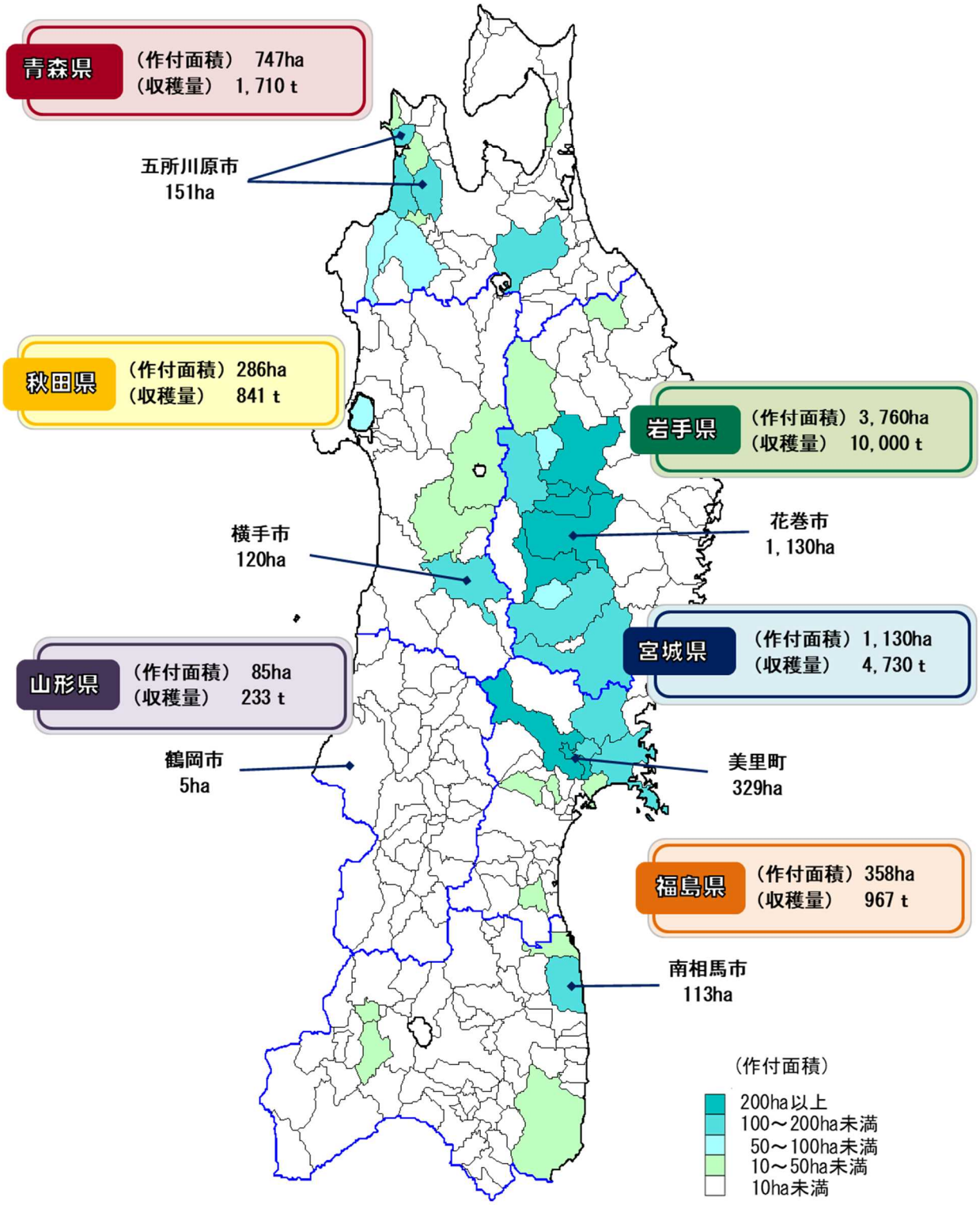


資料：農林水産省「作物統計」
　注：１）子実用とは、主に食用にすることを目的にするもの
　　２）作付面積の推移（全国・東北）の東北の値と作付面積の推移（県別）の各県の値は、データごとに四捨五入するため、一致しない場合がある。

図表 参 2-20　小麦の作付面積（令和元(2019)年産）

東北　（作付面積）6,370ha
（収穫量）1万8,500t

（全国　（作付面積）21万1,600ha
（収穫量）103万7,000t）



資料：農林水産省「作物統計」
注：１）子実用とは、主に食用にすること(子実生産)を目的とするものをいう。
２）個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、一部の市町村の小麦(子実用)作付面積を公表していないことから、当該市町村は白色としている。
３）表示した市町村は、各県内で小麦（子実用）の作付面積が公表されている市町村で最も大きい市町村である。

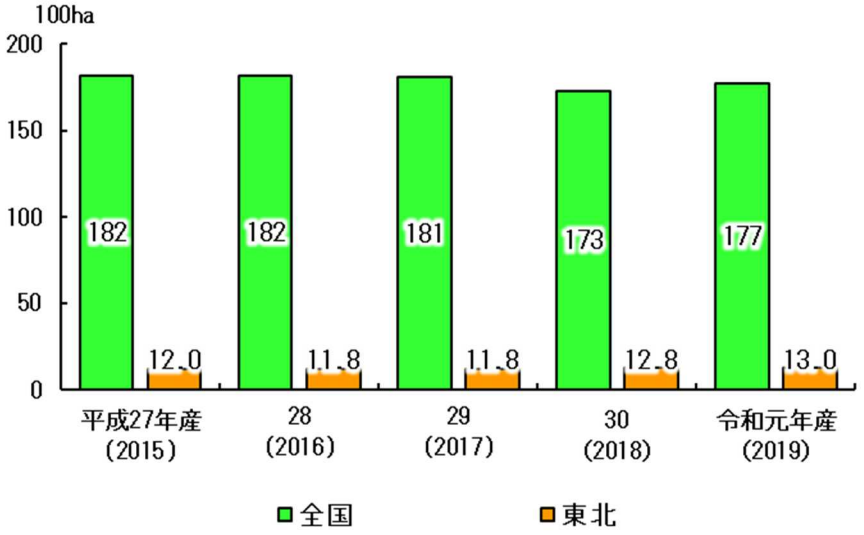
（六条大麦作付面積、収穫量は、前年産より増加）

○　東北における令和元(2019)年産の六条大麦（子実用）の作付面積は、前年産と比べて 1.6%増加し、1,300ha となりました（図表 参 2-21）。

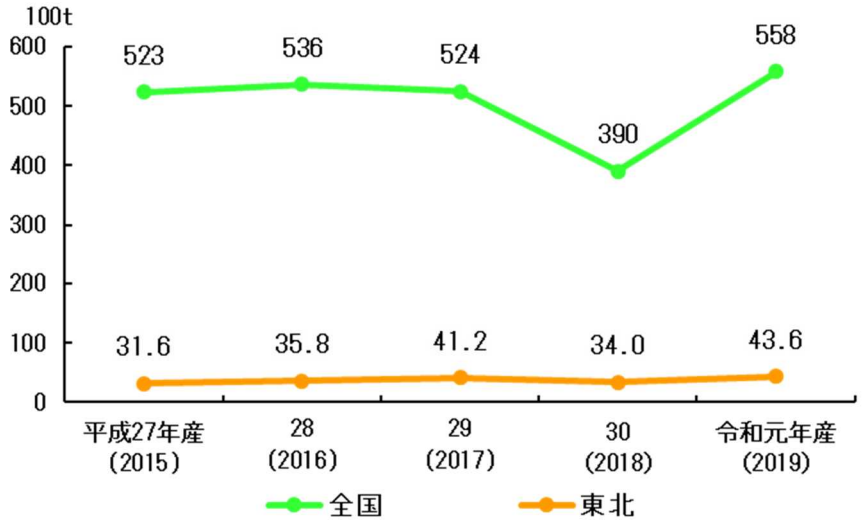
○　収穫量は、作付け面積が増加したことに加え、作柄が良かったことにより、前年産に比べて 28.2%増加して、4,360 t となりました（図表 参 2-22）。

○　品質については、令和元(2019)年産の検査結果（確定値）の１等比率が前年産に比べて 8.1 ポイント上昇し、25.9%となっています。

図表 参 2-21　六条大麦(子実用)作付面積の推移（全国・東北）



図表 参 2-22　六条大麦収穫量の推移（全国・東北）



資料：農林水産省「作物統計」
　注：子実用とは、主に食用にすることを目的にするもの

３．大豆、そば

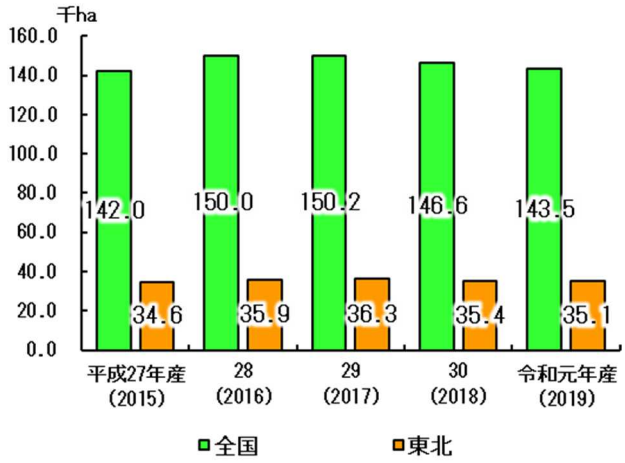
（大豆作付面積は前年産に引き続き減少、収穫量は、前年産より増加）

○　東北における令和元(2019)年産の大豆（乾燥子実）の作付面積は、前年産に引き続き 0.8%減少し、３万 5,100ha となりました（図表 参 2-23）。

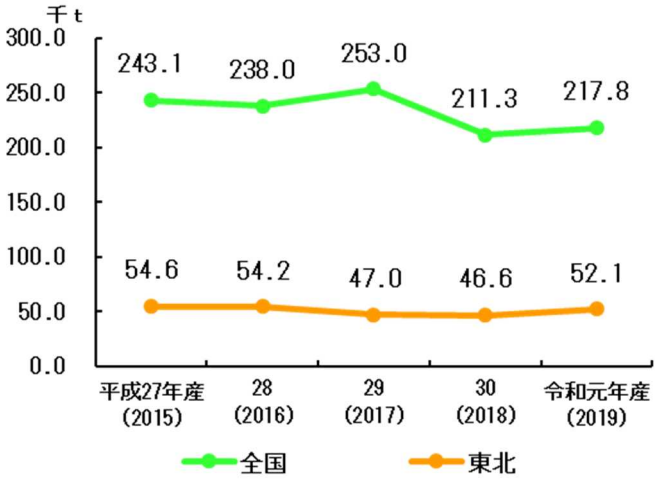
○　収穫量は、作付面積が減少したものの、作柄が良かったことにより、前年産に比べて 5,500ｔ増加し、５万 2,100t となりました（図表 参 2-24）。

○　品質については、令和元(2019)年産大豆の検査結果（確定値）の１・２等比率（上位等級比率）が、前年産に比べて 5.9 ポイント低下し、61.4%となっています。

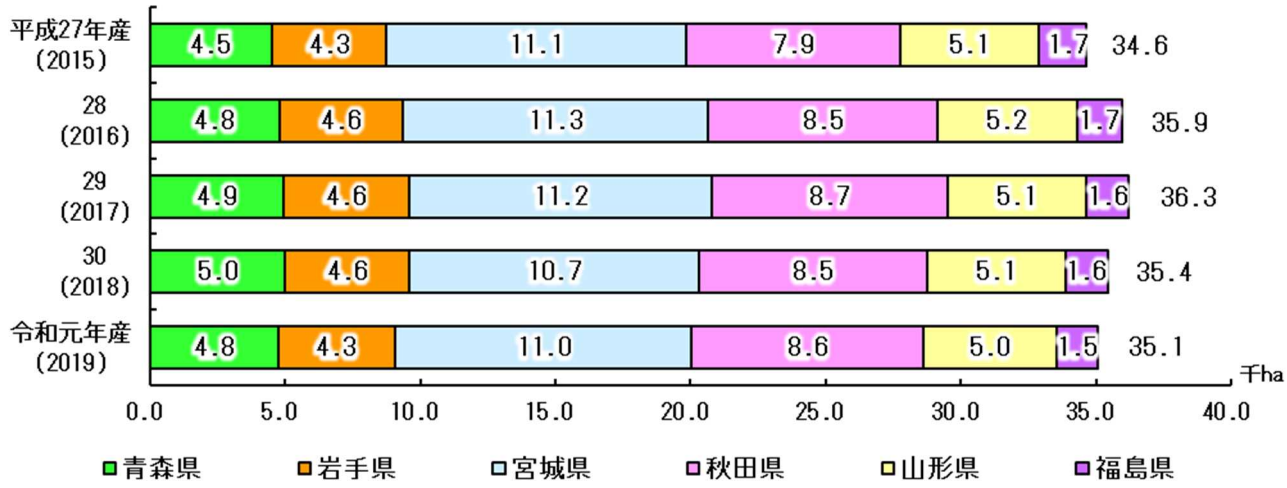
図表 参 2-23　大豆(乾燥子実)作付面積の推移(全国・東北)



図表 参 2-24　大豆収穫量の推移(全国・東北)



図表 参 2-25　大豆(乾燥子実)作付面積の推移（県別）



資料：農林水産省「作物統計」
注：１）乾燥子実とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ等）を除いたもの
２）作付面積の推移（全国・東北）の東北の値と作付面積の推移（県別）の各県の値は、データごとに四捨五入するため、一致しない場合がある。